

まっすくな地平線

相互理解のために大切なこと

5年 H・Uさん

最初にこの本の題名を見た時、広大な景色が頭に浮かび、それが何を意味しているのだろうと興味がわいた。ただ表紙の絵からは、年齢や性別の違う二人の友情を描いた物語ではないかと想像できた。

実際に読み進めていくと、小学六年生の悠介と大人の女性ミンミンの心の交流がつつられていたが、二人の間にある日中の文化的違いも明らかになった。生まれ育った国が異なれば考え方にも違いが生じ、意思の疎通は容易ではない。しかし二人は次第に心を通わせ、最後にはお互いを理解し合う。そして果てしなく続く中国の大地すなわち「まっすくな地平線」を広い心で一緒にながめようという気持ちになっていくのだ。

では、二人はどうやって距離を縮めることができたのか。私はこの物語を読んで、他者との相互理解には、地道なコミュニケーションが絶対に必要で、とても大切なものと強く感じた。中国人ミンミンの言動はストレート過ぎて、周囲の目を気にしがちな日本人から見ると違和感を覚える点はあるが、自分らしさを大切にする中国人ならではの良さもあり、コミュニケーションの方法としては学ぶべき所が多いのではないかと思う。

第一に、他者との出会いに感謝して笑顔で接し、思いやりを持って、ありのままの自分を出すことである。ミンミンは悠介との出会いを心から喜び、「日本の友人でもあり、なくした息子のようだったのかも」と思い、いつも大輪のひまわりのような笑顔で悠介に接した。他者との出会いを大切にすれば、気持ちの理解が深まって自分も成長するし、笑顔は良い人間関係をつくるきっかけにもなる。ミンミンのこうした姿勢から、悠介との友好関係が育っていったのではないだろうか。また第二に、他者との違いを認め、良い部分を尊重し、偏見を持たずに歩み寄っていくことである。ミンミンは、中国の小麦粉を持ち込んで「バオピン」という食べ物を作るために手作りをしたり、日本人の感覚に合わせて海用のサンダルを買ったりして、積極的に歩み寄りの努力を重ねた。小さなことでも交流を続け、お互いの違いを受け入れていく思いやりの心によって、悠介との距離を少しずつ縮めることができたのだろう。

「広い景色は人の心を広くする」というミンミンの言葉のように、世界中の人々が他者との細かい違いにとらわれることなく、同じ人間として理解し合い、より広いものを見方ができるようになれば、様々な問題を解決していけるのではないかと思う。他者の理解は自分の成長にもつながっていく。国内外を問わず、私もこれから難しい人間関係にぶつかる場面が出てくるだろう。その時は常識や固定観念だけに止らられることなく、いろいろな考え方を柔軟に吸収できるよう心がけていきたい。